



第62回バイアスロン日本選手権大会

令和8年3月3日(火)から5日(木)の間、西岡バイアスロン競技場(北海道札幌市)において「第62回バイアスロン日本選手権大会」が実施され、バイアスロン班の立崎幹人(たちぎきみひと)1等陸尉以下7名が出場し、初日スプリント、2日目マススタート及び最終日リレーのそれぞれの種目において優勝するなど、多くの選手が表彰台に上がった。

女子7.5km スプリント



初日のスプリント種目(時間差スタート・射撃2回)では、女子7.5kmにおいて竹内美琴(たけうちみこと)3等陸曹が2位に38秒差をつけて優勝した。2回の射撃(伏射及び立射)を行い、1発外すごとに150mのペナルティコースを回らなければならないスプリント種目で、竹内3曹は伏射を満射(全弾命中)で終わると、迎えた立射では最小限のペナルティ1という安定した射撃により優勝を決めた。佐々木美紗(ささきみさ)2等陸曹は射撃でペナルティ3のハンデを負ったが力強い滑りにより2位の成績を取めた。3位には福田光(ふくだひかる)3等陸曹が入った。優勝した竹内3曹は「難しいコンディションできついレースだったが、たくさんの応援が力になった。」と試合を振り返り感謝の気持ちを述べた。

男子10kmは立崎1尉が2位、長岡溪汰(ながおかけいた)3等陸曹が3位の成績を取めた。

2日目のマススタート種目(一斉スタート・射撃4回)では、女子12.5kmにおいて佐々木2曹が優勝した。佐々木2曹は雪で視界が悪く、的も見えづらい状況の中、伏射2回目で5発のペナルティを課され苦しい展開となった。しかし、その後は持ち前の走力で前を行く竹内3曹を追いあげると同時に入った最後の立射ではここ一番の集中力で見事満射。そのまま逆転し優勝を決めた。2位には終盤まで競り合った竹内3曹が入った。優勝した佐々木2曹は「満足のいく内容ではなかったが、タフな状況の中でシーズン最後に優勝できたことは純粋に嬉しく、来シーズンへの自信に繋がった。勝負を決めきれて楽しかった。」と試合を振り返った。

男子15kmは初日のスプリント種目と同様立崎1尉が2位、長岡3曹が3位の成績を取めた。

女子12.5km マススタート



男子リレー種目



最終日のリレー種目では男子7.5km×4名に、立崎1尉、大田喜日向(おおたきひゆうが)2等陸曹、郷翔一郎(ごうしょういちろう)2等陸曹及び長岡3曹が出場し優勝した。リレー種目は伏射と立射の2回の射撃を実施する。1走の郷2曹は正確な射撃と積極的な滑りで区間1位、2走の長岡3曹は五輪出場経験選手に対し、必死に食い下がり僅差の2位で次に繋いだ。3走の大田喜2曹はスタート直後にトップに立つとペナルティはあったものの区間1位の滑りを見せた。4走の立崎1尉は1発も外すことなく完璧な射撃で2位以下を圧倒するレース展開により約5分の大差をつけて優勝した。

試合後、選手達は「タフなコンディションだったが各々が冷静に状況を判断し、良いレース展開で繋ぐことができた。チームが一丸となり、楽しんでレースができた。」とそれぞれがレースを振り返った。